

GCR@SEAN認定講座2010 修了証書を手にして

鳥取県男女共同参画センター
よりん彩(よりんさい) 企画員 河崎 紀子

私は、今の勤務先である鳥取県男

女共同参画センター「よりん彩(よりんさい)」に勤めて3年目になります。大学を卒業してから30年近く、ずっと小学校の教員として勤務していた私にとって、学校以外の職場は初めてです。このセンターに教育現場から出向というカタチで派遣されるようになったのは、私が2人目で、前任者は再び中学校教諭として子どもたちとかかわっておられます。

鳥取県の男女共同参画意識調査によると、男女平等意識は学校教育で突出して高くなっています。確かに学校の中では、他の分野に比べると、男女の差別というのはそれほど目には見えないかもしれませんが、「ほんとに平等か？」と問われると、「？」がきます。学校の中で、性によって違ってくる教員側からの指摘、子ども同士の「女のくせに・・・」「男だろ」などの会話、男女の役割の差、教員の分掌の違い等々、まだまだ平等とは言えない状況があると思います。

今回の2日間は、自分自身のジェンダー意識を改めて問い返すよい機会になりました。学校や保育所などで子どもたちと接する機会の多い人たちに、ぜひ聴いてほしい、伝えたい

内容の講座でした。

少人数で、グループみんなで意見を出し合いながら決めていくという進め方なので、答えは自分自身の中にあり、自ら見つけ出していく・・・みんな決めてルールを守りつつ、和やかに、深く、積極的な参加で、会話のキャッチボールをしながら進められました。言ったことを受け止めてもらえる、それを返してもらえ会話の心地よさを感じることができました。

私たちおとなは、子どもたちにとって『強者』であることを常に自覚し、ありのままを尊重しながら、自身がジェンダーにとられない視点を持つことができるよう日頃からアンテナを高くしていきます。気をつけてみると私たちの周りには、「あれっ？」と思うことが数多くあります。それに気づいたら、「おかしい」とを発信していけるおとなになりたと思います。発信することができる立場にいることを幸せに思っていたことを心から感謝します。充実した2日間でした。また高槻に行きま

「おーいはじまるよ」の音とともに 明日を創るカケラがカタチになった2日間

「障害者とともに」を考える企画グループ
ちまちま工房 永田 千砂

講座を修了して思う事。

脳裏に廻ったそれは学びの先にある「あたらしい視点」のスタート地点。「おーいはじまるよ」の音とともにスタートが切られ、その瞬間からの発見の多さに驚いている。一番大きな発見。それはとても身近なところにあった。

一緒に暮らす子どもたち二人の知らなかつた面を強烈に思い知らされた。

5歳に子どもに早速聞く。

「女の子？男の子？自分はどっちや思う？」と私。

「女の子！きっぱりと即答。

「じゃ、自分が男の子だったらどう思う？」

「ぜーったいイヤ！かわいい方がいい！」「カワイイってたとえばどんなの？」「ハートやろ、ピンクやろ、スカートで、キラキラで・・・」「聞きながらクラつとなる。『そうか。』心の中でつぶやく。昔彼女から言われた「千砂ちゃんを買ってくれる服ってぜんぜんかわいくない」という言葉がよみがえてきた。この発言の裏にはしっかりと様々なメディアから影響を受け、「女の子」という文化が生ま

れていたのだということ。改めて気づかされた。

もう一人の9歳の子どもにも懲りずに聞いてみた。

「男の子、女の子自分はどっちがいい？」と私。

「人間やったらどっちでもいい。」につこりと即答。

「じゃ朝起きたら女の子だったらどう？」と乱暴な質問にもニッコリ笑って

「え？良いで♪人間やったら。」ほん、これもまた発見。何もジェンダーについて話をしたこともなかったのに、彼は友人もほぼ男の子。乱暴な言葉を吹っ掛けるときだけ思い出したように使っていることは知っていたけど、彼にとつてのジェンダーはつまるところ「どっちやでもええねん」であった。

こんなに身近な二人にも芽生えているジェンダー。どこからやってくるんだ？その答えは講座の中にたくさんあった。多くの人とこのことが話せる場を・・・創っていきたい。